りそな総合研究所
RESONA

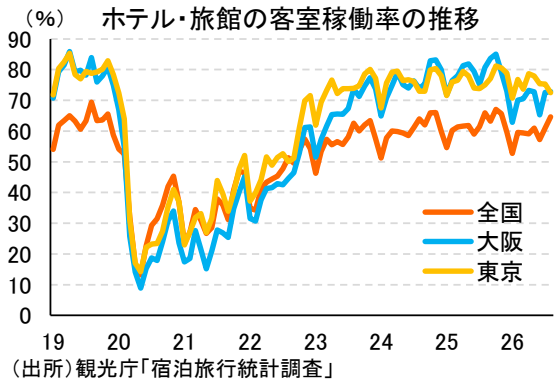
2026 年 11 月 11 日

関西の景気トピックス【ホテル稼働率（26 年 8 月）】

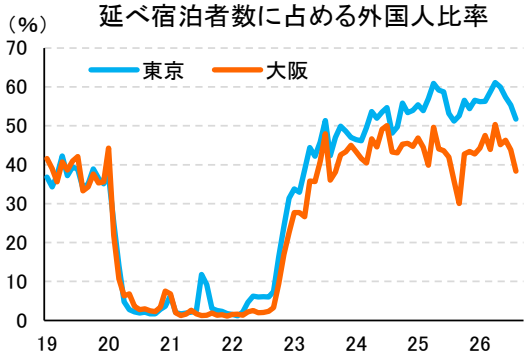
○ 26 年 8 月の宿泊旅行統計調査（観光庁）によると、足元の客室稼働率は東京、大阪を中心に前年を下回る動きとなる中、特に大阪の低下傾向が目立つ。これは昨年の万博開催に伴う反動減が大きいほか、中国の渡航自粛の影響も少なくないとみられる。

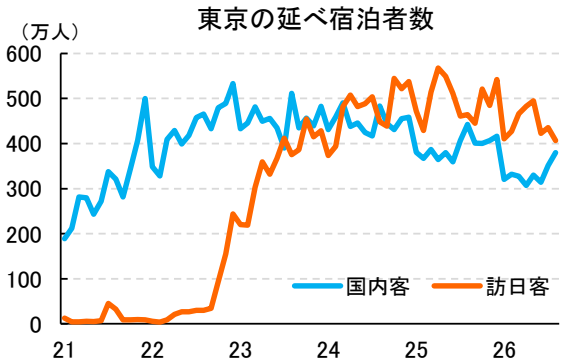
○ 延べ宿泊者数に占める外国人比率については、東京と大阪の格差が開いている。東京が 50%を上回る水準が続く一方、大阪は 40%台で推移している。ただし、東京も直近ではやや低下傾向となるなど、ここへきて少しトレンドの変化がみられる。

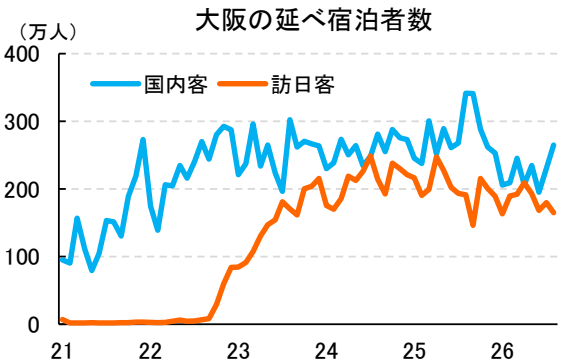
○ 延べ宿泊者数の推移をみると、東京は訪日客、国内客ともに緩やかな減少がみられる。直近の 8 月は国内客の利用が増えているものの、季節要因による部分が大きく、前年の水準は下回っている。一方、大阪も同様に、訪日客、国内客ともに減少傾向となっている。このように、東京、大阪の利用客が全体的な減少傾向にある結果、両県の利用客が全国に占める比率は、かつて 3 割に迫る水準であったが、直近では 2 割を下回っている。



（出所）観光庁「宿泊旅行統計調査」







本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL:06（4705）3635 mail:hd-araki@rri.co.jp